

季節の花を用いた大型空間ディスプレイの制作

フラワーファクトリ科

3年 草花A班

1、目的

花業界で求められる人材はフラワー装飾に関する技術を幅広く持っていることであり、従来の西洋から伝わったフラワーアレンジメントの知識や技術だけでなく、日本古来より継承されてきた華道の技術を持っていることが有効である。本研究では、長年花業界に携わってきた専門家の方から講義および指導を受け、実際に制作することを通して広い空間を飾る大型ディスプレイの制作技術を身につけることを目的としており、1年時より3年間継続して実施している内容である。

2、実施内容

| 回数 | 実施時期 | 実習内容 | 場所 | 制作単位 |
|----|---------|------------|----------|---------|
| 1 | 平成4年度 秋 | 剣山方式 | 本校 農業管理棟 | 個人 |
| 2 | 令和5年度 秋 | 投げ入れ方式 | 本校 農業管理棟 | 個人 |
| 3 | 令和5年度 冬 | 投げ入れ方式（大作） | 本校 玄関ホール | 1～2名 1組 |
| 4 | 令和6年度 春 | 入学式の舞台装飾 | 本校 体育館 | 個人 |
| 5 | 令和6年度 春 | 投げ入れ方式 | 池田城跡公園本校 | 個人 |
| 6 | 令和6年度 冬 | 投げ入れ方式（大作） | 本校 玄関ホール | 1～2名 1組 |

3、作品写真

令和6年4月8日 本校入学式 ／ 6月6日 池田城跡公園 ／ 1月23日 本校玄関ホール



4、生徒感想（一部抜粋）

- ・最後に2人で投げ入れができて良かった。花瓶の口が大きく入れにくい花器を選んだので苦戦したが、すごく満足のいく作品が作れた。ユキヤナギをラインではなく前に入れるのは考えたことがなかったので、すごく勉強になった。
- ・先生から形を気にしすぎという言葉にハッとさせられた。制作中ずっと高さや広がりばかり見て、花本来の活かし方や顔をちゃんと見ていなかったと気づいた。特有の自由な感じを活かせなかったことが、少し心残りです。
- ・花瓶の配置によっては裏、横からの目線もあるので、限りある花材を上手く割り振って作っていかないといけない。作品の立体感の作り方は後ろだけに傾けるのが正解じゃなく、前があるからこそ後ろがあるという考え方を知れてよかった。